



# 海外

# 稲門会の躍動

Overseas TOMONKAI

登録稲門会 検索

現在、約70の海外稲門会が世界各地で活動しています。海外に滞在する際は、現地の稲門会を検索して参加してみましょう。  
※一部、活動休止中の稲門会もありますことを、ご了承ください。

## 会長メッセージ

ハノイ稲門会は、この10年で80人以上の新規会員登録があり、近年の日系企業の目覚ましい進出とその事業規模の拡大を反映しています。  
現在、COVID-19の影響で稲門会活動は停止中ですが、昨年は定例会4回、坪井名誉教授による読書会6回、今年1月には早慶ゴルフ対抗戦を開催しました。定例会は毎回30人ほどが参加し、会員の貴重な情報交換の場となっています。活動の特徴の一つが読書会で、遠藤周作、宇沢弘文、村田沙耶香など幅広い分野の作品を取り上

げ、会員以外の方も参加し、毎回日本からお越しの坪井先生にご指導をいただいています。そのほか、早慶ゴルフ対抗戦では接戦の末、3連覇を果たしました。今後は早慶戦に加え、東大や立教などとも交流戦を行う予定です。  
会員数も年々増加し、活気あふれる会に成長しつつあり、今後さらなる会員の交流を目指し、有意義な親睦会や外部との交流会を企画し、盛り上げていきたいと思ひます。  
木ノ下忠宏(1986年理工)

## 会員からのメッセージ

1982年に卒業して以来、合計すると約36年間で6カ国7回の海外赴任をしてきました。今回のハノイ赴任は98年以来2回目、2008年から駐在しています。過去の赴任先では現地の稲門会に入会して、世界中で早稲田の先輩方にお世話になりながら、ここまでたどり着きました。どこの任地が一番良かったか、よく聞かれますが、いつも「ハノイ」と即答します。  
ハノイ稲門会の活動には、主にゴルフを通じて参加しています。新型コロナウイルス対策も、政府の早い決断と厳しい執行力で感染者数を抑え込み、5月に入り、ハノイ周辺だけでも10カ所以上あるゴルフ場も、ようやく解禁になったので、今年はこれからプレーの回数が増えそうです。  
本多康高(1982年社会学)

新型コロナウイルス騒動の際には、医療従事者や施設で隔離中の方々など、親が大変な状況にある子どもたちへ絵本を贈るプロジェクトを展開しました。多くのハノイ稲門会の方が主旨に賛同し、支援金を寄せてくださいました。本当に早稲田の卒業生で良かったと感じた瞬間でした。  
勝 恵美(1999年社会学)

ハノイに来て2年半がたちました。元々ベトナムを訪れたこともなかったのですが、食事もおいしく、人も優しく、公私共にとても充実したベトナム生活を送っています。海外で働いていると、日本ではなかなかお会いできないようなさまざまな業種や立場の方とお話できる機会がたくさんあります。その最たるものが稲門会です。毎回、人生の先輩方の勉強になるお話を伺い、そのたびに早稲田の卒業生で本当に良かったと感じています。  
東 梨里愛(2014年文構)

ハノイへ赴任した2016年にハノイ稲門会に入会し、その後18年から幹事長を務めています。幹事長になってから改めて感じるのは、会員の年次、業界の幅が非常に広く、公私ともに助けられる機会がたくさんあることです。出張、ご旅行でハノイにお越しの際は、ぜひお気軽にお問い合わせください。  
河野宏樹(2006年商学)

## ハノイ稲門会について

2002年に設立されたハノイ稲門会は、2023年3月現在、会員数140人を数えます。会員の年齢層は幅広く、また業種は多岐にわたっています。主な活動は、定例会(年4回)、坪井名誉教授主宰の読書会(年6回)、ゴルフ練習会(不定期)、早慶ゴルフ対抗戦(年1回)、ハノイ稲門会の若手の会に位置付けられる早苗会(不定期)、その他共通の趣味で集まる会合も複数あります。集合すれば、自然と母校のことが話題に上り、締めはみんなで校歌斉唱。「すっかり忘れていた青春気分がよみがえる」、「学生時代のノリが戻ってきておいしい酒が飲める」、「普段会えない異なる分野の人と出会える」など、参加する楽しみもいろいろです。  
ハノイにお越しになる際は、ぜひハノイ稲門会にご連絡ください。  
河野宏樹(2006年商学)



ゴルフを通しての交流も盛ん。早慶ゴルフ対抗戦での勝利を目指す

ウェブサイト  
<https://hanoitomonkai.amebaownd.com/>



## ハノイの魅力

ハノイはベトナムの首都であり、千年以上の歴史を持つ魅力的な街です。人々が憩う湖や公園が街中にあり、早朝にはエアロビや社交ダンスを楽しむ人々の姿を見ることが出来ます。5月になると街路樹が赤や紫の花をつけ、6～7月にはハスの花が街にあふれます。路上には小さなお茶屋さんがあり、平日にもかかわらず人々はいつも談笑しています。その様子に「ベトナム人はいつ働いているのか？」と疑問に思う観光客も多いようです。  
新型コロナウイルスの騒動の際には、政府が迅速に指揮を執り、人々もすぐさま政府の方針に従いました。国と市民が一丸となって対応する姿は、柔軟性が高く窮地に強いベトナムを国内外に知らしめました。人々はエネルギーにあふれ、家族や人とのつながりを大切に暮らしています。仲良くなればなるほど、おせっかいさが増すということもありますが、「幸せとは

何か」ということをいつも私に気付かせてくれる、そんな街です。  
勝 恵美(1999年社会学)

(上)街のシンボル、建国の父が眠るホーチミン廟  
(下)フランス統治時代の建築、オペラハウス



定例会の様子